

---

# 魔法先生ネギま！ーある転生者の物語ー

メガエルメス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法先生ネギまーある転生者の物語ー

### 【Nコード】

N8136Y

### 【作者名】

メガエルメス

### 【あらすじ】

とても平凡な暮らしを送ってきた東雲海翔>しののめかいとく。彼は不運(?)な死を遂げ、ネギまの世界に転生する。平凡だった青年の送るバトルコメディー!(のハズ)

本作品はネギまの二次小説であり、作者の処女作です。生暖かい目で見守って頂けると幸いです。

本作品は転生物です。

最初から最強ではありません。

ハーレムになるかどうかわかりません。が、ネギまである以上なる可能性は高いと思います。

そして作者は運動部4人組が大好きです(略)

## 第0話（前書き）

初投稿。

顔から火が出るほど恥ずかしい。  
感想とか……あれば待ってます。

## 第0話

「……何処だここは。」

目が覚めると、見慣れた自分の部屋とはかけ離れた白い空間にいた。“いた”という表現はもしかしたら正しくないかもしれない。と、言うのも、自分がそこに存在しているかどうかさえ確認できないからだ。

俺の名前は東雲 海翔、高校2年生だ。

対して目立つ存在でもなく、可もなく不可もなく高校生活を送っている。

どちらかというとりア充氏ね、とか言ってしまうタイプのグループに属してはいるが、皆気のいい奴等で高校生活に不満はなかった。両親は海外で仕事をしていて、一人暮らしをしている。

とまあ俺の自己紹介も程々に、今の状況を冷静に考えねばならんだろう。

辺りを見渡す、白い。そして他に何も無い。

「夢だろうか……?」

「残念ながら、夢ではありません。」

いきなり虚空から女性の声が降りてきた。

「誰だっ!?!」

「驚かせて申し訳ありません。私この世界を管理しておりますアテ

ネ、と言います。」

「アテネさん……か。」

とりあえず会話が出来る存在がいて助かった。

「アテネで構いません。東雲海翔さんですね？」

「あ、はい。俺も海翔でいいですよ。」

「では海翔、落ち着いて聞いて下さいね？貴方には、転生をして頂きたいと考えています。」

……へっ？

「……はい？転生？」

「そうです、転生です。」

「……ごめん頭が追いつかない。まず、俺は死んだってこと？」

「貴方が今まで生きてきた世界ではそうなりますね。」

なかなかの衝撃的事実。

「マジか……。じゃあ次、どうして死んだ？一応昨日寝る前までは健康体だったと思うんだけど。」

「はあ……。やっぱり気が付いてなかったんですね。」

「うえ！？俺なんかしちゃったっけ？」

「貴方昨日友達と秋刀魚のパーティーしてたでしょう？」

うっ、なぜ知ってる。

「それはもう盛り上がりましたね？七輪の火に気が回らないくらいに。」

「え”っ、じゃあ俺が死んだ理由って……。」

「火の不始末による一酸化炭素中毒死です。」

「……。」

アホだ……。なんちゅうアホだ……。

「そんなアホな最期を迎えてしまった貴方に、心優しい私がもう一度生のチャンスを与えてあげるといつてるんです。ほら、崇めなさい讚えなさい。」

「えっ、突然の変わり身……。」

「コホン、ということでは貴方には転生をして頂きます。」

「それはどうも……。」

「感謝が小さい！」

「えっ、」

「はっ！いいえいえどういたしまして。」

「いや、もう遅いよ。アンタそっちが本当のキャラだろ。」

「ち、違いますよ？違いますからね？」

弁解しているアテネはさておき、これは大変なことになった。転生か……、また0歳からやり直してことか。

「あ、海翔が想像している転生とはちょっと違います。」

「へ？だって転生だろ？」

「はい。転生といっても、海翔の場合、前世の記憶や肉体を継続したまま平行世界に召還という形で転生になります。」

「平行世界？」

「簡単に言えば漫画やアニメといった空想の世界のことですね。」

これはまた衝撃的発言。

「……そんなのバトル漫画とかだったらすぐまた死んじゃうんじゃないの？」

「はい。ですから海翔の願いを3つ程叶えて差し上げます。」

おお、これは結構重要になるな。



「ちなみに俺の転生する世界は聞けるの？」

「はい。“魔法先生ネギマ！”の世界ですね。」

「えっ、ガチじゃんあれ。」

「ガチですね。」

「……………」

これは3つが相当重要になってくるぞ。

ただ、あまり強すぎる力は持ちたくない。だって絶対人生面白くなるし。」

「そうだな……………。BLEACHの斬魄刀が一つ欲しい。」

「既存のですか？」

「いや、オリジナルのがいいな。」

「どんな能力にしますか？」

「んー、戦闘が出来ればどんなのでいいや。」

「随分適当ですね。」

「うっさい。次は修行に比例して強くなれる力が欲しい。」

「ふむふむ、堅実的ですね。」

「最後に、俺の他の転生者を俺と同じ世界に送り込まないで欲しいな。」

「……それは何故？」

少しアテネの雰囲気が変わった気がした。

「俺がこんな曖昧な理由で転生させて貰えたんだ、他の転生者がいてもおかしくないし、なによりそんな奴等を相手にするのが面倒臭いだけだよ。」

「ふふつ、意外と鋭いんですね。」

「な、なんだよいきなり笑うなよ。」

「いえいえすみません。では、準備が整いましたので転生させますね。」

「おう、ありがとな。」

「また、お会いしましょう。」

視界が一気に暗転した。

「東雲海翔君ですか……。少し興味が沸いてしまいましたね。」

## 第0話（後書き）

海翔君の斬魄刀の能力は作中で明らかにします。

後、チート能力はアテネさんが一つだけやらかしました。

バトル描写はたぶん苦手。orz

修行前の無双だけはやらかさないように注意します。

それでは、次回もよろしくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8136y/>

---

魔法先生ネギま！－ある転生者の物語－

2011年11月24日01時53分発行